

# シリーズ第13回 この本をあなたにも薦めたい

## 『生きがいについて』

人が生きて行くうえで最も大切なことは、「生きがい」を持つことであると言われている。この本は、どうしたら生きがいを得ることができるのかという問いに対して、示唆を与えてくれる「生きがい」という人生の根源に関わる難しい内容を扱っているにも拘わらず、平易で丁寧な文体で書かれているので、大変読みやすい。読んだ直後に、もう一度読み返してしまう文章がいくつもあり、その一字一句を反芻すればする程、深い意味を持っていくことに気付く。それは、精神科医として、ハンセン病の治療に生涯を捧げた著者の、深い慈悲の心が一語一語に光を与えるからであろう。

## 神谷 美恵子著

著者は「生きがい」の本質について、様々な考察を加えている。生きがいには、生存充実感への欲求、自己実現への欲求、意味と価値への欲求などがある。大切なことは、この世で生かされている幸せを感じ取れるかどうかである。与えられた使命を全うしながら、誠実に一所懸命に生きていくことに生きがいの本質がある。生きがいは、人生の試練を与えられた場でしばしば生まれるものであり、他人や社会への貢献こそが生きがいの源泉となるという。

この本は、古今東西の様々な偉人たちの呻吟や詩観が紹介されており、一種の名言集の様な構成になっているので

先人たちの生きざまを知ることができる。巻末の引用文献の浩瀚なリストを見れば、著者がいかに幅広い教養を持って広角な見地から本書を著述したのがわかる。

めまぐるしく変転する現代社会を生き抜くには、時代を超えて変わらぬものに注目することが大切であるといわれる。私たちは、どう生きるかという「人生学」について学ぶ必要に迫られたときに一読をすすめた本である。

公益財団法人  
伊藤青少年育成奨学会  
評議員 原 隆 男



## 奨学生の年度別、出身高等学校別明細

出身高等学校	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合 計
恵那	京都大 慶応義塾大 静岡大	名古屋大 金沢大 信州大	名古屋大(2人) 金沢大	大阪大 岐阜大 信州大(2人) 名古屋大	14
恵那農業	新潟大	静岡大	名城大	名城大	4
中津	—	—	—	岐阜大 富山大	2
中津商業	—	中京大	南山大	—	2
坂下	—	—	中部学院大	—	1
土岐商業	滋賀大	中央大	南山大	—	3
多治見北	立教大 名古屋大	名古屋大 東京大 千葉大	慶応義塾大 同志社大 名古屋市立大	横浜国立大	9
多治見	—	—	—	筑波大	1
瑞浪	—	南山大	—	—	1
瑞浪麗澤	—	—	—	東京外国語大	1
可児	—	南山大	—	—	1
加茂	—	—	愛知大	お茶の水女子大	2
加茂農林	—	—	富崎大	—	1
美濃加茂	—	—	—	東京大	1
関	岐阜大 名古屋大	神戸大	一橋大 名古屋大	慶応義塾大	6
武義	名古屋大	—	—	愛知教育大	2
岐阜	東京大 中央大 名古屋大 早稲田大	岐阜大 広島大	—	中央大 岐阜大(2人) 東京外国語大 早稲田大	11
岐阜北	神戸大 名古屋大	—	同志社大 名古屋市立大 筑波大	—	5
加納	大阪大	南山大	—	—	3
長良	名古屋市立大	—	名古屋大	—	2
岐山	慶応義塾大	岐阜大	東京学芸大 南山大	岐阜大	5
県立岐阜商業	中央大	—	中央大	中央大	3
岐阜名務野	法政大	—	—	—	1
羽島北	—	岐阜大	—	—	1
岐阜女子	—	東北大	—	—	1
大垣北	大阪大 東北大	早稲田大	愛知教育大 東京大 金沢大 名古屋大	大阪府立大 富山大	9
大垣南	岐阜大	—	岐阜大	—	2
大垣商業	—	中央大	早稲田大	—	2
大垣日大	—	滋賀大	静岡大	—	2
斐太	—	金沢大 山形大	慶応義塾大 名古屋大 愛知教育大	—	6
吉城	岐阜聖徳学園大	—	—	—	1
高山西	—	藤田保健衛生大	—	—	1
滝	国際基督教大	筑波大	—	—	2
一宮興道	—	—	—	名古屋大	1
合 計	26	25	33	25	109

**公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局**  
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1  
TEL 0572-20-0800(直) FAX 0572-29-1168

## 平成24年度 奨学生募集中

～奨学金を通じて、本気で学びたい人を応援します～  
奨学生の選考方法を下記のように変更しておりますのでご注意ください



■支給金額・支給方法  
支給月額 30,000円(自宅通学・自宅外通学とも)  
※返還の必要はありません  
支給期間 最長4年(平成24年4月～)但し医学部生は6年  
振込日 4,5,6,7,8,9月分 6月中旬  
10,11,12,1,2,3月分 12月中旬

■募集人員  
大学生 25名程度(短期大学生を除く)

■応募資格

- 新1年生であること  
(平成24年4月 四年制大学へ入学される方)。
- 岐阜県出身または県内在住の方
- 人物、学力ともに優れていること
- 経済的理由により修学が困難であること

提出書類、選考基準等につきましては当財団ホームページ、事務局又は高等学校へお尋ね下さい。

E-mail: webmaster@ito-zaidan.or.jp  
U R L: http://www.ito-zaidan.or.jp/  
発行:公益財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
印刷:トーヨー印刷株式会社

# 伊藤青少年育成奨学会

## 奨学会だより

2011.10.1  
**vol.13**  
年2回発行  
(4月・10月)

■平成23年度スポーツ振興支援事業・地域振興事業贈呈式が行われました  
■先輩からの便り紹介  
■奨学生の声紹介  
■奨学生の年度別・出身高等学校別明細  
■平成24年度奨学生募集

シリーズ第13回

この本をあなたにも薦めたい

## 平成23年度スポーツ振興支援事業・地域振興事業贈呈式 スポーツ振興支援事業費など 総額1,500万円を支援



奨学会は去る7月8日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、平成23年度の贈呈式を行った。奨学会は平成11年設立後、積極的な活動をしている高等学校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施している。また、今年度より地域振興事業についても同時に贈呈することにした。

贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会 松川禮子教育長をはじめ学校関係者約50人が参加。伊藤理事長は「戦後の復興のように、みんなで知恵を絞り、一丸となって乗り越えよう」と東日本大震災の被災者へエールを送った後、各団体へ目録を手渡した。

設立から12年間の事業費

	奨 学 金	ス ポー ツ	国 際 交 流	そ の 他 (伊藤賞奨励金を含む)	合 計
平成12年度	4,800	13,100	3,000	—	20,900
平成13年度	9,600	10,700	3,000	500	23,800
平成14年度	21,600	6,100	3,000	200	30,900
平成15年度	28,800	10,000	3,000	200	42,000
平成16年度	25,200	10,000	13,000	1,300	49,500
平成17年度	26,280	11,500	3,000	4,000	44,780
平成18年度	31,080	10,400	3,000	3,000	47,480
平成19年度	35,040	11,300	—	—	46,340
平成20年度	37,380	13,310	1,500	2,000	54,190
平成21年度	37,080	8,700	—	7,000	52,780
平成22年度	39,600	12,800	—	1,000	53,400
小 計	296,460	117,910	32,500	19,200	466,070

～平成23年4月1日から公益財団法人となりました～

年 度	奨学金支給事業	スポーツ振興支援事業	地域振興事業	合 計
23(見込み)	39,960	13,100	2,000	55,060
合 計	336,420	131,010	53,700	521,130

平成二十三年七月十六日  
多治見西高等学校  
弓道部 顧問 黒田瑞穂

先日の贈呈式で、伊藤喜美理事長が東日本大震災と戦後の日本のお話をされましたが、普通の生活ができることに感謝をし、戦後たくましく日本を復興させた日本人の力を信じ、今回もきつと皆が力を合わせ、良い方向に向かって信じて、少しでも自分のできることをしていきたいと心から思いました。

今年度のインターハイは北東北で行われます。弓道競技は岩手県盛岡市での開催です。本校弓道部も男子団体出場することになり、何かできることはないだろうかと考えており、もし、今回は直接的に何もできなかつたとしても、選手そして応援の生徒が東北の現状を目で見ても何か感じてくれたら、未来の日本を創る上で少しでも力になるのでは...と思います。部活動ではこんな経験ができることも意味があることだと思えます。

これからの部活動を通じて、生徒がいろいろな経験をし、様々な事を感じ、考え、人として成長してくれることを信じ、精一杯生徒と向き合っていきたいと思っております。まだまだ高校生を指導する者としては未熟者ではありますが、頑張ります。この度は本当にありがとうございました。

【地域振興事業について】  
「青少年のための科学の祭典」～科学の不思議や楽しさの体験を子ども達に～全国大会が1992年に始まり、現在は地方大会・自主大会を合わせて、全国およそ100ヶ所で行なわれております。岐阜県でも、1992年から岐阜大会が開催されています。今年度は、去る7月16日、17日の2日間恵那市で開催されましたが、この事業を計画したボランティア団体(A・S・O・B Oプロジェクト)へ運営資金として200万円支援いたしました。当日は、大学教授、企業関係者に混じって子どもたちも約40種類の色々な実験を行い、楽しみながら科学を学びました。この祭典には多くの小、中学生ほか父兄、関係者など延2,700人が集いました。

## 平成23年度(公財)伊藤青少年育成奨学会 スポーツ振興事業等被援助団体及び援助額

①県内の高校運動部に対する支援

学 校 名	部 名	金額(円)
長良高等学校	陸上競技	340,000
羽島北高等学校	フェンシング	540,000
岐阜総合学園高等学校	女子ホッケー	360,000
	女子バレーボール	150,000
県立岐阜商業高等学校	陸上競技	200,000
岐阜農林高等学校	馬術	230,000
岐阜工業高等学校	バレーボール	200,000
岐阜聾学校	卓球	500,000
清美高等学校	陸上競技	300,000
岐阜第一高等学校	自転車競技	570,000
大垣南高等学校	フェンシング	540,000
大垣商業高等学校	硬式野球	1,000,000
	なぎなた	370,000
海津明誠高等学校	女子バレーボール	220,000
大垣特別支援学校	陸上競技	240,000
大垣日本大学高等学校	駅伝競技	200,000
武義高等学校	テニス	300,000
加茂高等学校(定時制)	サッカー	180,000
八百津高等学校	ボート	1,000,000
東濃実業高等学校	陸上競技	480,000
美濃加茂高等学校	陸上競技	630,000
土岐商業高等学校	バスケットボール	480,000
恵那南高等学校	卓球	260,000
恵那農業高等学校	テニス	460,000
中津高等学校	水泳	450,000
東濃特別支援学校	女子バスケットボール	400,000
多治見西高等学校	弓道	350,000
中京高等学校	ボクシング	600,000
益田清風高等学校	陸上競技	1,000,000
高山西高等学校	男子ハンドボール	450,000
合計(28校・30運動部)		13,000,000

②地域振興事業

青少年のための科学の祭典 岐阜大会 in 恵那	金額
	2,000,000
合 計	2,000,000

(公財)伊藤青少年育成奨学会様  
盛夏の候、貴財団におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。今回は、多治見西高等学校弓道部を(公財)伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の支給対象としていただき、誠にありがとうございました。部員一同大変喜び、大切に使用させていただきます。部員一同大変喜び、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

現在男子18名、女子26名で活動している弓道部ですが、多治見西高等学校が元々女子校だったこともあり、創部当初はまだ女子のみの活動しか行われておりませんでした。九年前より男子生徒も部活動ができるようになり、部員数も増えましたが、体格に合う弓をなかなか揃えることができておりませんでした。今回弓を購入することができ、本当に嬉しです。ありがとうございました。





## 先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

### 2011年3月ご卒業の方からのお便りです

### 水向 祐樹

東京大学工学部マテリアル工学科卒（大垣北高校卒）

大学生活を振り返ると、この4年間は私が大きく成長できた期間でした。入学して間もない頃は、知り合いはおらず、土地勘もなく、生活することに精一杯な毎日でした。一人暮らしに慣れ、大学生活が軌道に乗り始めるまでに数ヶ月は必要だったと記憶しています。

大学での勉学は高校までのものとは異なる点が多々ありました。東京大学は1年から2年の前半まではすべての学生が教養学部に属するため、文理を問わず広い学問を学ぶことができました。2年の後半からは、3年での進学先ごとに専門科目が始まりました。私の進学したマテリアル工学科では、材料の分類ごとの物性、作製法、精製法などといった、より専門的で実践的な内容を学びました。4年からは、研究室に所属し、指導教員の下で卒業論文を作成しました。この最後の1年間は、未知のものに挑む1年間になりました。私は、粉末冶金において、炭化物粒子が粗大化する機構を解明する研究を行いました。研究では、粒子の組織を観察するために、透過型電子顕微鏡（TEM）を用いました。このTEMを用いると、原子一粒一粒を捉えることができます。TEMを用いることは簡単ではなく、原子の配列が判別できるほど明瞭なTEM写真を撮影できるまでに約4ヶ月を要しました。苦労が多々あった分、卒業論文が完成したときは、本当に嬉しく感じました。未知の領域で試行錯誤した経験は、今後必ず役立つものと思います。

大学卒業後は、東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻に進学します。所属する研究室は現在お世話になっている研究室と同じです。しかし修士では、学部の頃のように修士や博士の先輩が上に付くことはありません。今まで以上に、自分で考え行動することが求められます。これまでの4年間の大学生活で培った知識と経験を用いて、これからも成長していきたいと思います。

最後になりましたが、御会の皆様には、大学での4年間ご支援して頂き、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

\*\*\*\*\*

### 鈴木 一也

名古屋大学工学部機械・航空工学科卒（恵那高校卒）

この4年間を経まして、私は大きなものを得ることができました。それは自信です。大学生になって、私は初めて勉学に関して苦境に立ちました。私は名古屋大学に推薦入試で合格し、学力だけで名古屋大学に入学してきた一般入試合格者達に劣等感を感じていました。入学したての頃は実際に授業やレポート、期末試験などを通して、彼らに学才は及ばないと感じるが多々ありました。私にとって是非常に辛い時期でした。しかし、自ら望んで入った大学を諦めることは自分の中で許されず、必死に勉強しました。着実に単位を得ていき、年々周りの友達の学力に近づいていっているように感じる事ができました。

それでも劣等感が消えることはなかったのですが、昨年大きな出来事がありました。大学院入試です。私の学科は9割以上が進学を希望するのですが、その全員が進学する枠はなく、学科内で20人から30人くらいが不合格となってしまう入試です。入学時の自分では正直想像できませんでしたが、合格することができました。3年間の積み重ねに加え入試前の受験勉強、自分でも本当によく頑張ったと思います。大学院入試の厳しさに大きな不安を感じていましたが、合格できたら合格という結果だけでなく、自分にとって大きなものが得られる気がし、これが大きなモチベーションとなっていました。実際に合格して、私は自信という大きなものを得ました。学才はいまだに彼らに勝るとは思いません。しかし、努力すれば彼らと肩を並べられる自信、その努力を自分はすることができるという自信を得ました。もともと学才自体には自信を持っていませんが、努力で補える自信は持っており、これを大学では失いかけていました。大学院入試を経て、この自信がさらに大きなものとなって戻ってきました。これは今後の自分にとっても非常に大きなことだと確信しています。

申し遅れましたが、来年度の進路先は名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻機械科学分野に決まりました。あと2年間大学で勉強、研究を頑張り、小さい頃から夢だったトヨタ自動車に入社、そして自動車開発に携わることを叶えようと思います。絶対に叶えます。

私のように、貴奨学会のご支援が非常に大きな助けになる人が必ずいると思います。今後もぜひとも学生達へのご支援を継続していただけたらと心より願っています。貴奨学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

### 小澤 沙和

大阪大学法学部法学科卒（岐阜高校卒）

振り返れば、大学4年間は、あっという間でしたが、一生の財産となるような多くの経験をさせていただきました。

カンボジアへの観光を機に取り組んだNPO活動、自分の興味を探究すべく挑戦した編入学、尊敬すべき師や友との国際政治のゼミ活動、マネージャーとしてサポートに従事した部活動、接客のノウハウを学んだアルバイト経験。それぞれのコミュニティで世代や国籍を越えた尊敬すべき友がたくさんできました。興味、関心を自分の中にとどめるだけでなく、大学に進学し都市に上京したことで、交流する多くの機会を与えていただいたこと、心から感謝しています。友人に、いつも忙しそうだね!と驚かれるほど、スケジュール帳は常に予定でいっぱいでした。濃い4年間を過ごせたと自負しています。

大学での経験を経て、就職先には地元の電力会社を志望しました。資源の少ない日本において、国際社会との取引を通じ、燃料を得、中部地区の発展に寄与する会社で、大学で学んだ知識や経験を活かしたいと考えたからです。天災時の安全や環境との共生など課題も多い業界ではありますが、地域に生き、世界に伸びる(大学の理念でもあります)人であるべく、これからも成長し続けたいです。

最後になりますが、4年間を通して温かい支援をしていただいた伊藤青少年育成奨学会様に心より感謝を申し上げます。また、今後のますますのご発展をお祈りしています。本当にありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 田中 結

岐阜大学教育学部生涯教育課程卒（加納高校卒）

私の岐阜大学での4年間を振り返ると、大好きな子どもとあらゆる場所で関わり、大好きな子どもについてあらゆる視点から学ぶことができたことと思います。

もともと8才離れた妹がいることもあり、小さな子どもが大好きで、生涯子どもに関わっていきたいという思いから、大学では子どもの心理、つまり発達心理学を学ぶため、岐阜大学教育学部生涯教育課程に進学しました。この課程では、心理学を専攻としながら、副専攻として教員免許を取得することができるため、幼稚園教諭と小学校教諭の第1種免許の取得を目指すこととしました。そのため、心理学の授業では、人の心が成長と共にどう変化していくのかを学び、教員免許の授業では、その心の変化に対してどのようにアプローチしていくのかを学ぶ、といった具合に、学問と学問がつながることを実感することができました。さらに1年生では、3ヶ月間、2週間に一度の附属小・中学校での授業観察、2年生では1週間、1つのクラスにおける観察・実習、そして2日間の特別支援学校での実習、3年生では1ヶ月間、「教師」という立場での実習、4年生では3ヶ月間、1週間に一度の「心理サポーター」としての観察・実習というように、様々な形でたくさんの子どもたちと関わり、数え切れないほど多くのことを学びとってきました。

また、学外では、保育士資格への挑戦や、病院の小児科病棟でのボランティア、九州大学主催の絵本に関するイベントへのスタッフとしての参加、科学館や託児保育のアルバイト等々、大学で身につけたことを実践しようと、積極的に動いてきました。その中でも特に、病院の小児科病棟でのボランティアを通し、これまで私にとってあまり馴染みのなかった場所にも、遊びを求めている子どもたちがいることを知り、その子どもたちのために、何かできることはないのだろうかと考えようになりました。

4月からは玩具を扱う会社に総合職として入社します。輸入玩具の販売を主とする会社ですが、病院のプレイルームや待合室のコーディネートも行っており、私がボランティアをする中で生まれた思いを実現することができそうです。

このように充実した大学生活を送ることができたのも、伊藤理事長をはじめ、貴財団のみなさまのおかげです。最後になりましたが、4年間のあたたかいご支援、本当にありがとうございました。貴財団の今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。

### 奨学生の声

.....2011年4月までに提出された学業状況報告の一部です。

#### 清水 友貴

東京学芸大学教育学部人間社会科学課程2年(岐山高校卒)

教員への志を忘れることなく、日々充実した大学生活を送っております。また通信教育で保育士資格にもチャレンジしているところであります。秋に、社会教育と社会福祉に精通する教員を目指して、スクール・ソーシャルワークを研究するプロジェクトに加入しました。そして学内のそのプロジェクトメンバーと共にベトナムツアーに行き、スラム街で暮らす人々と子どもの教育について考えました。また、ベトナム戦争の傷跡が社会問題の根底にあることに気がつくツアーとなりました。今年はこのプロジェクトの中核を担うメンバー、チームの一員として活躍し、日本のスクール・ソー

#### 川上 司

藤田保健衛生大学医学部医学科3年(高山西高校卒)

私の通っている医学部の第2学年では、基礎医学を学びます。これは第3学年以降に学んでいく臨床医学の土台となるものです。そのため第2学年は厳しいと言われており、授業の内容も本格的に医学を学びます。確かに今年度は苦勞しました。人体の生理機能は非常に理解しにくく、様々な細胞、生成物、受容体との関連は煩雑さを極めました。さらには暗記事項も膨大なものとなり、多くの時間をかけなければなりませんでした。このような厳しい状況に対しては友人と「教え合い学習」を行うことで乗り越えました。これは、医師国家試験に臨む6年生が学校の方針として取り入れているものと同じです。これは非常に効果的だったと実感しています。

しかし、試験に向けてうまくいかないこともありました。そのような時は

#### 青木 拓也

大阪大学工学部環境エネルギー工学科4年(大垣北高校卒)

4回生となり、研究室に配属されることになりました。私が配属される研究室の扱う分野は「都市エネルギーシステム」です。内容としては、家庭や商業施設でのエネルギーの使われ方を分析し、その使い方を最適なものに変更する方法や、最適なエネルギー供給方法などを考えることです。私は特に家庭でのエネルギーの使われ方に興味をもっています。家庭での生活は快適さが第一で、環境やエネルギーのことを考えて不便な生活

#### 小森 寛之

名古屋大学工学部物理工学科4年(武義高校卒)

この春から僕が所属している材料工学コースの学生は、教授・准教授が担当する各研究室に配属されました。僕は「材料再生プロセス工学」という分野を研究のベースとする平澤研に配属されることが決定しました。名古屋大学に入学する前から「プラスチックのリサイクル技術」に興味を抱いており、このテーマについて研究できる研究室を調査した結果、この平澤研に至りました。

大量生産・大量消費・大量廃棄という社会のシステムによって資源枯渇や埋立処理が問題視されるようになり、それに伴いリサイクルが注目されています。プラスチックには「易成形性」「軽い」「耐腐食性」「絶縁性」といった特長があるため、あらゆる分野で幅広く利用されています。そのため廃

#### 上田 昌子

岐阜聖徳学園大学教育学部4年(古城高校卒)

現在、最も力を入れているのはゼミでの研究です。「幼児の発達に関わる家庭環境と心理的援助について」のテーマをたて研究しています。教育を今まで勉強してきた、幼児に特に興味をもち、またこの時期の経験や環境、人間関係がとても重要であると思い、このテーマについて深めていこうと実際に保育園で子どもたちの様子をデータに進めています。子どもたちの発することは、行動一つ一つには大人が考えている以上に子どもの思いが示されており、とても興味深いです。そのため子どもが置かれている環境や状況など背景となるものまで理解することが保育者、教育者は重要であり、その子に合った支援が必要となります。よりよい支援が出来るようになるためにも、このテーマを追究していきたいと思います。教育の中では知識や技能を教授することが挙げられますが、子どもを理解する児童理解、生徒理解が要となります。ゼミ

シャルワークの基礎を練っていきたいと考えています。そして全国に発信していきますので、本大学の「子どもの問題プロジェクト」公式ホームページにご注目いただけたら幸いです。

貴奨学会の温かい応援にお応えできるよう、今年も精一杯勉学に励んでまいりますので、今後共よろしくお願い致します。

<b>奨学会からのコメント</b>	<b>四十年前のベトナム戦争の傷痕。日本では六十五年前の傷痕が未だあり、あらたに今回の東日本大震災がある。「子ども問題」の考察時に、歴史・社会、自然の営為と人間の生物学的類と個の視点もぜひ。</b>
-------------------	---

教授室まで尋ねていき、教えを乞いました。生理学教室へは何度も足を運んだ記憶があります。今年度は医学部受験期よりも勉強しました。非常に大変ではありましたが、医学を学んでいるという実感と充実感がありました。医学の土台となる基礎医学を実習と共に真摯に取り組んだことにより、第3学年からの臨床医学に対する理解がより深いものになると確信しています。

<b>奨学会からのコメント</b>	<b>最後の五行を特に感銘を持って読みました。大変なことでも前進しているという実感は人間を鍛えます。それを若くして経験できたことがまず素晴らしいし、羨ましい。被災地でも医療は目の前の救済になる。我々は医療従事者を尊敬しているのです。</b>
-------------------	--

\*\*\*\*\*

はしたくないのが当然です。しかし、社会的にはエネルギー消費の削減が求められている。その中でできることは何かを考えていきたいと思っています。研究をするにはまだ甘い考えしかもてていないと思いますので、しっかりと勉強して、じっくり取り組んでいきます。

<b>奨学会からのコメント</b>	<b>まさに渴望されている分野。ただ快適さが第一とは考えていない。シンプルで環境への負荷が少ない暮らしを望む傾向が既に。そんな設計が待たれる。</b>
-------------------	---

棄物中に占めるプラスチックの割合が大きくなっており、プラスチックのリサイクル率を向上させる必要があります。

僕はある混合プラスチックを想定し、そこから不純物を取り除き、得られた生成物を有効利用につなげられるような再生プロセスを研究したいと思っています。

また近年注目されている生分解性プラスチックやバイオマスプラスチックも視野に入れ、研究に取り組みたいと考えています。

<b>奨学会からのコメント</b>	<b>こういう取り組みを知ると人類は少しずつであれ進歩していると安堵する。その研究を担っているのは小森さんなのに、つい人類の英知の結晶と言ってしまふ。人類に資する研究の証左ゆえでしょう。</b>
-------------------	---

\*\*\*\*\*

での研究を基に子どもを理解する力を身につけられるように頑張っていきたいです。

また、平行に教員採用試験や就職試験の勉強にも毎日励んでいます。目標に向けて今は一生懸命努力することしか出来ませんが、実現できるように頑張ります。「教育」について学ぶことはその時代の社会、人の考え方を学ぶことになり、とても難しく、面白い分野だと改めて感じています。もっと「教育」について知りたい、勉強したいと思えるようになったし、追究していくことで自分の視野が広げられるようにと学業に励んでいます。

<b>奨学会からのコメント</b>	<b>「教育」を追求していくと奥が深いが、ひとつ覚えておいてもらいたいのは、人間は群れをつくる動物だということ。社会をつくる動物だということ。教育の問題はほとんどそれに起因します。</b>
-------------------	--